



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり……」

聖書(エフェソ書3章18~19節)

牧師 河合裕志

ここでパウロはキリストの愛というものは人の知識をはるかに超える程のものだよ、と述べる。人の常識のはるかに及ばない位に広いもの、長いもの、高いもの、深いものだよ、と。こう言われてしまってもう何も言葉をさしはさむことは出来ない感じだけれど、パウロはこれを少しでも理解してほしい、知ってほしいと望んでいる。

今キリストの愛の広さについてふれてみたい。キリストはこう呼びかけている。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11章28節)。「だれでもわたしのもとに来なさい」、これがキリストの愛の広さというものではないか。「だれでも」だから、男でも女でも、大人でも子供でも、どこの国の人でも、ということ。そこに区別はあるけれど差別はない。君は女だから子供だから〇〇人だから招かれていないということはない。性別・年齢・人種等による差別、不当な扱い、分け隔てはない。どなたでもおいでなさい、ということ。

そこに条件があるとすれば「疲れた者、重荷を負う者」ということになる。こういう人を私は招くよ、とキリストは言う。

しかしこの条件は誰にでもあてはまるものではないだろうか。生きることに疲れを少しも覚えないなどという人はいるものか。子供さんであっても結構疲れている。また私には何の重荷もないと言える人もいるだろうか。どんな人でも、幸福そうに見える人であっても何らかの重荷、悩み、課題を持っている。自分や家族の健康問題、経済問題、人間関係、進路、成績、死別……。新たに新型コロナウイルスの問題も、これは日本中、世界中の人々を悩ませている。

とに角キリストはその広い愛をもってありとあらゆる人を身元に招いている。またキリストは上記の人々に加えて「罪人」を招いている。こう語りかける。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マルコ2章17節)。これも広い愛と言わねば。人間はみな罪人、利己主義の固まり、人を傷つけてやまない。そんな人間の罪が神に赦されるようにキリストは十字架について犠牲となってくれた。そのキリストが今日も両手を広げて、罪人よ、我きたに来れ、と招いている。疲れた者、重荷を負う者同様に。そしてキリストは休みを、赦しを与えようと待ち続けている。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時~7時